

令和5年1月6日

前橋市歯科医師会

会長 石原 秀一郎 様

特定非営利活動法人群馬県歯科衛生士会

会長 長谷川 万里



令和4年度 8020 県民運動推進特別事業研修会開催のお知らせ

新年あけましておめでとうございます。貴職におかれましては恙なく新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動にご理解ご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、標記研修会を東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野 教授 相田 潤先生をお招きして下記の通り開催いたしますのでご案内申し上げます。

ご多忙中とは存じますが、貴会会員の先生方にご案内賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

日 時 令和5年1月29日(日) 午後1時30分～3時30分  
く 受付 午後1時10分～

会 場 群馬県歯科医師会館 5F ホール

演 題 歯科疾患の重要性および健康格差と対策」

講 師 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野  
教授 相田 潤先生

\* 参加ご希望の方は1月23日(月)までにFAXにてお申し込み下さい。

群馬県歯科衛生士会 FAX : 027-253-3368



このまま切らずにFAXして下さい

8020 県民運動推進特別事業研修会申込書

(令和5年1月29日)

医院名		お名前	
-----	--	-----	--

## <講演抄録>

### 「歯科疾患の重要性および健康格差と対策」

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 健康推進歯学分野 相田 潤

2021年5月27日、世界保健機関（WHO）の第74回世界保健総会において、口腔保健に関する決議が承認された。国際歯科連盟やアメリカ歯科医師会はこれを「歴史的な決議」と報道しており、国際保健的にも、そして先進国においても、歯科界に重要な決議であることがうかがえる。

決議が出された理由は、過去10年ほどにわたり、口腔保健の重要性が様々な角度やデータから広く認識されたためである。この重要性のひとつとして、歯科疾患の有病率が極めて高いことが挙げられる。これは世界的な大規模調査である「世界疾病負担研究」においてその初回調査といえる2010年から継続的に報告されて来たことであり、医学系のトップジャーナルの1つであるLancetなどで繰り返し論文が出されている。この結果、Lancetで初めてとなる口腔保健特集号が2019年に出版されることにもなった。

決議で述べられた口腔保健の重要性は、日本にも大部分ではまる。例えば、う蝕は減っていることばかり強調されているが、日本においても他の疾患と比較すると多く、それは例えば他の疾患と比べた場合の高額な国民医療費につながっている。WHOの決議はこのような先入観でゆがめられていた価値判断を、データからとらえなおす機会を提供しているといえる。

そして決議の中では歯科疾患の健康格差についても強調されている。健康格差とは社会的決定要因が原因で生じる健康の差異である。日本においても子どもから高齢者まで口腔の健康格差は大きい。コロナ禍の失業により、米やパンが買えないという経験をしたひとり親家庭が多く存在するなど、貧困が深刻化しており、歯の健康のための経済的負担も大きくなっていると考えられる。コロナ禍で若者や女性の自殺も増加しているが、ここから子どもの親世代で経済的に極めて厳しい状況に置かれている人々が増えていることが推察され、健康格差の深刻化が心配される。

健康格差の対策は簡単ではないことが多いが、子どもにおいては、幼稚園・保育園・こども園・学校などでの集団フッ化物洗口が、健康格差を減らす上で有効であることが知られている。どのような家庭環境の子どもであっても、園や学校に行けばう蝕予防の恩恵が受けられる環境の実現は、格差縮小に大きく寄与するのである。子どもの時期のフッ化物洗口は、大人の時期にも少ないむし歯を実現することが厚生労働省の事業から報告された。本講演では健康格差と社会的決定要因について、さまざまな実例からの解説を行いたい。

## <略歴>

2003年 北海道大学歯学部卒業

2004年 国立保健医療科学院専門課程修了

2007年 北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了

2007年～2011年 東北大学大学院歯学研究科助教

2010年～2011年 University College London 客員研究員

2011年～2020年 東北大学大学院歯学研究科准教授

2012年～2018年 宮城県保健福祉部 参与（歯科医療保健政策担当）兼務

2014年～2020年 東北大学大学院歯学研究科臨床疫学統計支援室室長

2020年～21年 東北大学大学院歯学研究科歯学イノベーションリエゾンセンター地域展開部門教授（クロスアポイントメント）

2020年～ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野教授

日本老年学的評価研究（JAGESプロジェクト）コアメンバー、口腔の健康格差の研究と政策の国際センターコアメンバー、日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会委員長などを務め、健康格差とその原因や解消方法の研究を中心に、口腔の健康と全身の健康や、東日本大震災と健康の社会的決定要因の変化と健康の研究などを行っている。